

地域商業・産業振興・まちづくり・商品開発等に関する研究調査および研究発表(ゼミナール活動)



#商品開発 #マーケティング #地域活性化

目的

地域や現代社会の抱える課題について調査・研究し、研究発表活動を通じて学生の主体性、研究能力、プレゼンテーション能力を醸成する



活動の概要

- **主な連携先**
日高製菓/徳島県三次市/いちにち文庫実行委員会(徳島県三次市)/JA/十三子ども食堂/守口子ども食堂まんぶく食堂/パソナ/大丸/松坂屋/amaサラダ/ひらかたパーク/基山モール商店街(佐賀県)/ちびはる保育園(佐賀県)/健軍商店街(熊本県)/和歌山大学経済学部足立ゼミ/近畿大学総合社会学部ふせのわ/関関COLORS/関大前ラボラトリ/フードバンク大阪/マルハニチロ株式会社/吹田市
- **活動地域**
近畿、九州、四国エリア
- **活動期間**
2017年度～継続中
- **活動資金**
経済学部 近畿圏以外での研究発表活動に対する補助金 (2020年度および2021年度はコロナ禍のため適用なし)

連携にいたる経緯

ゼミナールでは、地域商業の現状と活性化、企業のマーケティング活動等について学び研究してきた。これらのテーマの解明にはフィールド調査が必要であり、ゼミナール生はさまざまなフィールドに出て現地調査を進めている。そのような調査に、多くの事業者や団体、自治体等の皆様が協力してくださっている。



活動内容

地域においてフィールド調査を行い、そこから得られた内容を精査し、各種の学生研究発表大会で成果発表をしている。2019年と2020年には地域の事業者とコラボレーションし、実際の商品開発にも取り組んだ。前者は野菜市場の拡大を目的としたコールドプレスジュース(尼崎市の専門店と連携)、後者は「なにわの伝統野菜」の市場開拓を目的としたジェラート(大阪市の専門店と連携)について商品開発し、それぞれ販売活動やプロモーション活動を実施し、その研究成果についてプレゼンテーション大会で発表した。

その他、大学やゼミが商店街の空き店舗を活用して行う活動(関西大学関大前ラボラトリを含む)やフードバンクおよび子ども食堂、地域に書店がなくなった「無書店地域」、ひらかたパークを対象とした地域密着型レジャー施設、ユニバーサルデザインフード(UDF)のマーケティング、大学生協食堂の食品ロス対策、城崎温泉を対象とした地域一体型温泉地域の活性化に関する調査研究など、地域に目を向けた研究を継続して展開している。

活動の成果

- 2019年度アグリカルチャーコンペティションのブロック優勝
- 2020年度アグリカルチャーコンペティション「実践的研究分野」最優秀賞&学生投票最多得票賞
- 2020年度アグリカルチャーコンペティションブロック優勝、審査員特別賞

今後の課題・目標・展開の可能性

- 地域商業活性化に向けた具体的な提言
- 地域活性化に貢献する商品開発
- 地域が抱える諸課題に対する学生の気づきの喚起

経済学部 教授 佐々木 保幸 Sasaki Yasuyuki



日本とフランスの流通政策研究を専門としている。最近では商業(ボランタリーチェーン)と協同組合の特質を併せ持ったフランス独自の商業の発展についても研究を進めている。

